

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立秀実小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

心豊かに たくましく 自ら高める 子どもの育成  
 進んで学ぶ子  
 思いやりのある子  
 元気な子  
 ふるさとを愛する子

今年度の指導の重点

○確かな学力と、自ら考え自己表現する力を育てる。  
 ○一人ひとりの良さを認め合い、支え合い、高め合う集団づくりを進める。  
 ○健康安全に関心をもち、心身ともにたくましく生きる力を育てる。  
 ○ふるさとの自然や人々を愛する心と態度を育てる。  
 ※礼儀(あいさつ・言葉づかい・くつそろえ・集中して聴く態度)を大切に発表力を伸ばしていく。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

全国(小6)  
 ○国語ABでは、県や全国平均をやや下回り、算数ABでは、やや上回った。  
 ○国語Aのローマ字の読み書きが、県平均・全国平均と比べると正答率が低い。  
 ○算数Bでは、示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して記述したり、例をもとに同じように説明したりする設問に、苦手が感じられた。  
 ○算数Bの数量関係を伴う「図形」の領域の設問については、県や全国同様、本校でも正答率が低かった。  
 県(中1)  
 ○すべての教科において、基礎問題は10～15ポイント程度、活用問題は10～20ポイント程度、正答率が県平均を上回っている。無解答についても、昨年度同様非常に少ない。  
 ○国語は、「話す・聞く」の領域で県平均を下回ったが、その他の領域ではすべて、県平均を大きく上回っている。  
 ○社会では、「我が国の国土と地域の様子」「情報産業や情報社会」の領域で正答率が県平均を大きく上回った。  
 ○数学では、これまでやや正答率の低かった「図形」の領域で正答率が県平均を大きく上回った。  
 ○理科では、「物質・エネルギー」「生命・地球」の2つの領域とも、正答率が県平均を大きく上回った。

【学習状況調査の結果】

全国(小6)  
 ○「地域の行事によく参加しているか」の設問では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えた児童は、県や全国に比べ20ポイント程度高い。  
 ○テレビ等の視聴時間が、県や全国に比べやや長い。  
 ○土曜日、日曜日など、学校が休みの日の勉強時間が、1時間以上と答えた児童の割合が県や全国平均よりも低い。  
 ○読書時間については、県平均・全国平均とも全く読書をしない児童が2割程度いるが、本校児童は、全く読書をしない児童の割合が低い。  
 ○「自分にはよいところがある」と思っている児童の割合が、県や全国平均に比べ低い。  
 県(中1)  
 ○テレビ等の視聴時間が、県に比べやや長い。  
 ○平日の家庭学習の時間については、「全くしない」と答えた生徒はいないが、2時間以上取り組んでいると答えた生徒の割合は、県平均に比べ低い。  
 ○読書時間については、県に比べ格段に多く、3割近い生徒が1日あたり2時間以上読書をしている。読書が自分の生活の一部となっている。  
 ○あいさつについては7割の生徒がよくできると答えている。残り3割の生徒も概ねできていると答えており、定着している。

成果と課題

○中1と小6では、児童が異なるが、校内研修で自分なりに課題を捉え解き方を考える「一人学び」やお互いの考えを出し合い、自分の考えを修正したり、深め合ったり高め合ったりする「仲間学び」を学習の中に取り入れて進めている。このような学びにより、自分なりに考え、答えを導き出すことができ、無解答が少なくなってきたと考えられる。  
 ○落ちていて学習に取り組むことができ、算数の基礎学力が定着している児童が多い。  
 (例)  $□ \div 0.8$  の商の大きさについての理解: 本校93.3%(全国64.8%)  
 ○地域の行事によく参加しており、家族や地域の人々に温かく見守られながら、恵まれた環境で成長していると言える。  
 ○「図形」の領域は、県や全国同様、本校でも正答率が低い。  
 ○提示された条件や字数制限のある文章で表現することが苦手である。  
 ○ローマ字の読み書きの定着にやや課題がある。  
 ○土曜日・日曜日など、学校のない日の家庭での学習時間が、県や全国平均をやや下回っている。  
 ○「自分にはよいところがあると思う」と答えた児童の割合が県や全国平均に比べ低くなった。

課題に対応した改善方法

○今までの過去問題に取り組んでいく中で、「図形」の領域を始め、他の領域についても論理的に考察する力をつけていく。  
 ○提示された条件や、字数制限のもとで、学習のまとめや自分の考えを文章で表現する機会を増やす。  
 ○毎日の授業の中で、自分の考えや感想が言えるような場の設定をする。  
 ○高学年では、1分間スピーチなど、テーマを決めて話すような機会をもつ。  
 ○学年に応じた自主学習についての指導をし、自主学習ノートを使った家庭学習の充実を図る。  
 ○ローマ字については、長音・拗音・促音・撥音など特徴的な表記のしかたや、アルファベットの正しい書き方に慣れさせる。  
 ○テレビ・ゲームの視聴時間が長い子どもほど学習の定着が良くない。その為、中学校、PTAと協力してメディアコントロール等の取り組みを継続し、保護者に対しても、さらに意識付けを図る。  
 ○毎週木曜日の朝学習の時間には、全校一斉に「算数問題データベース」等に取り組んでいる。また、家庭学習にも活用している。  
 ○行事をやりきらせることで達成感をもたせる。また、児童が努力していることに対して担任を始め、職員全体でしっかり受け止め、褒める。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

○小4・小5に、学力定着状況たしかめテストの実施(10月)、小3に、教研式標準学力検査の実施(2月)  
 ○児童へのアンケートの実施(学期ごと)  
 ○上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

○国語の平均正答率で県平均を上回る。  
 ○土曜日・日曜日など休みの日でも、1時間から2時間くらいは勉強する児童の割合を70%以上にする。  
 ○「自分にはよいところがあると思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。